

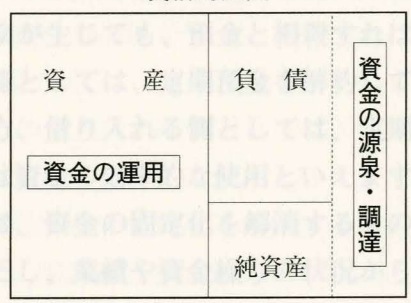
1 資金の運用と調達

学習のポイント

- ①貸借対照表の借方は資金の運用であり、貸方は資金の調達である。
- ②貸借対照表の2期間を比較し、その増減額によって資金の動きがつかめる。

資金の運用と調達については、UNIT 1において貸借対照表の構成で簡単に触れましたが、あらためて具体的にみていくことにします。

貸借対照表



企業は、必要な資金を純資産と負債で調達し、それを資産として運用しています。この資金の調達と運用の状況を財政状態といいます。そして、この財政状態を表したものが貸借対照表です。

資産、負債、純資産の増減と資金の調達・運用の関係については、すでにUNIT 2の第1章で理解されていると思いますが、もう一度ここで復習してみましょう。

資産の増加	資金の運用 (資金減少)
資産の減少	資金の調達 (資金増加)
負債の増加	資金の調達 (資金増加)
負債の減少	資金の運用 (資金減少)
純資産の増加 (利益の計上)	資金の調達 (資金増加)
純資産の減少 (損失の計上)	資金の運用 (資金減少)

●資金の調達・運用の関係

この資金の調達と運用の関係を、具体的な財務諸表でみてみましょう。

貸借対照表 (単位：百万円)

	前期末	当期末	増減額
現金預金	123	131	8
受取手形	132	155	23
売掛金	125	160	35
棚卸資産	150	186	36
その他流動資産	15	11	-4
貸倒引当金	-4	-7	-3
有形固定資産	110	185	75
投資有価証券	20	35	15
資産合計	671	856	185
支払手形	170	202	32
買掛金	97	111	14
短期借入金	20	115	95
未払法人税等	25	27	2
その他流動負債	55	48	-7
退職給付引当金	185	200	15
負債合計	552	703	151
資本金	50	50	0
剰余金	69	103	34
純資産合計	119	153	34
負債・純資産合計	671	856	185
(脚注)			
割引手形	94	97	3
減価償却累計額	110	95	-15

(注) 当期の減価償却費 20百万円

損益計算書 (単位：百万円)

	当期
売上高	1,420
売上原価	955
販売費・管理費	345
営業外収益	15
営業外費用	40
固定資産除却損	5
税引前当期純利益	90
法人税等	40
当期純利益	50

剰余金の処分 (単位：百万円)

	金額
配当金	16